



目に見えない伴走者

この1年、エンドオブライフ・ケア協会（ELC）の養成講座（2日間）を終えると、声がかれてしまい、うまく話ができなくなっていました。この8月は、あまりにもひどかったため、耳鼻科を受診したところ声帯ポリープとの診断が下りました。手術をすれば声は戻るが、1週間は話をしてはいけないこと、2週間は安静にして、あまり話をしないようにしなければなりません。悩んだ末、思いきって手術をうけ、10日間ほど休暇を取ることにしました。まず7日間は、話ができませぬ。思いきって、話をする必要の無い場所に療養することにしました。そして身も心も癒やされる場所としてハワイを選びました。（専門医試験も控えていて、こちらをもまとめて学ぶ時間となりました）

自然を感じたいと思い、毎日午後10kmほど走っていました。横浜と違って、ハワイは昼間でも風が涼しく補水さえ守ればとても気持ちよく走ることができました。

ハワイは、とても緑が豊かです。特に沿道にある大きな木には、不思議なエネルギーを感じます。走る途中、立ち寄りながら、いろいろな気を感じてきました。とても自分が小さく、ちっぽけに感じる一方で、伴走してくれる確かな存在も感じました。

走っている途中、苦しくなります。しかし、一人で走っているのではないと感じるのです。目に見える形で物理的にそばにいるのではないのですが、決して一人だけではありませんでした。

クリニックでは、私と同じように困難を抱えた人と向き合い、力になろうとするスタッフが、こうして一緒に走ってくれています。各地域には、ELCのメンバーをはじめ、いろいろ苦しみながらもそれぞれの場所で、苦しむ人の力になりたいと、一緒に走ってくれています。今まで出逢いお別れした患者さん・家族が沿道で応援してくれていました。FBでつながっている皆さんの暖かいメッセージも力になりました。そして、このミッションを与えてくださった神様の隣在を感じました。

これから進む道は、とても険しく長い道です。何度となく心が折れそうになるかもしれません。それでも、伴走して頂ける仲間がいます。その目に見えない伴走者を感じた貴重な時間となりました。

あらためて、この機会を頂きましたことに、心から感謝です。

小澤竹俊

2018年ホスピス緩和ケア週間イベント開催

10月7日（日）午後、めぐみ在宅クリニック研修室で、2018年ホスピス緩和ケア週間イベント「住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きるために」を開催しました。瀬谷区医師会訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム愛成苑、訪問薬樹薬局、介護支援センターひとはなの皆さまにもご協力頂くことができました。地域の皆様と一緒に学ぶことができましたことに、ご協力頂いた皆様と共に感謝いたします。ありがとうございました。



緩和医療学会認定医試験

緩和医療学会認定医試験が9月に施行され、めぐみ在宅クリニックからは4人が受験しました。かなり専門的な知識を必要とする筆記試験ですが、無事4人も合格することができました。これからも地域で緩和ケアを必要とする人のために専門性をもって緩和ケアを提供できる体制を整えて参ります。

診療実績

	2006- 2017年	2018年 1-6月	2018年 7月	2018年 8月	2018年 9月	2018年 計	総計
訪問回数	60,113	4,338	964	930	824	7,056	67,169
自宅永眠	1,985	110	25	22	17	174	2,159
施設永眠	281	26	8	5	7	46	327
在宅 (自宅+施設)	2,266	136	33	27	24	220	2,486
病院永眠	594	58	7	12	9	86	680